都道府県名	石川県

Ⅰ　学校の概要(平成１５年４月現在)

学校名	金沢市立中央小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	３	３	３	３	３	３		１８	２６
児童数	８４	１０２	１０６	８９	９４	９７		５７２	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

自分の考えを確かに表現し学び合う子の育成

～基礎・基本の定着を目指して～

・自分の考えを確かに表現するとは、子どもが相手に伝わるように書いたり、話したりすることで、また、学び合うとは、子どもが友だちとかかわりながら思考し、自分の考えの深まりを自覚することを意味する。このことは、集団学習の中でこそ成立するものであり、人間性の向上とも結びつくものである。

・基礎基本の定着とは、教師が学習指導要領に示された各教科の目標の確実な達成をめざすことを意味する。このことは、主題を実現していくために欠かすことのできないことであり、教師の教材研究が一層重要になる。

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

全学年・全教科で取り組む

・教師一人一人が自らの研究の中心となる教科を決め、実践研究をすすめる。

３～６年算数で取り組む

・児童の理解の状況に差が出やすい教科であること。

・Ｈ１３年度より、少人数の加配があり、算数科での少人数学習の積み上げがあること。

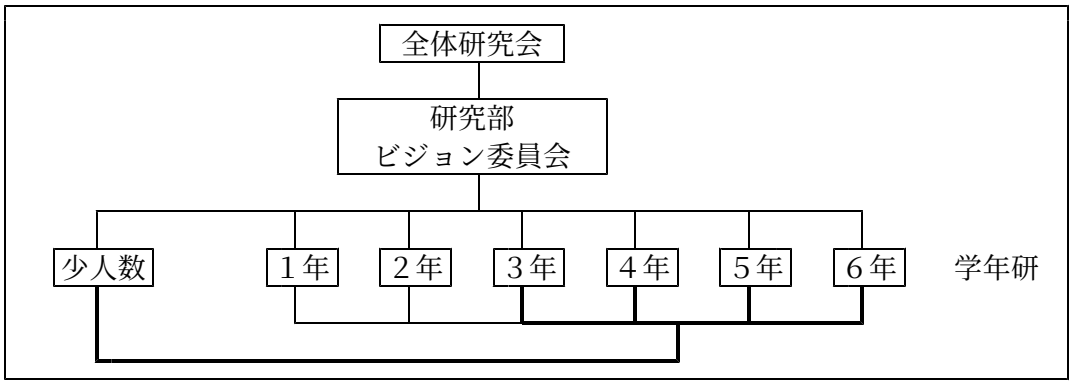
(2)　年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ (1)　確かな学びを作る学習過程の工夫 (2)　基礎基本に迫るねらいの明確化 (3)　習熟度に対応する少人数学習の工夫 ○　研究の見通し ・日々の授業実践の中で、基礎基本に迫るねらいを明確にし、確かな学びをつくる学習過程を工夫していくことで、「考える力・表現力」が育ち、確かな学力を身につけさせることができ、学び合う子が育成されると考える。

	○　研究の内容・方法 (1)　教師集団の共通理解を基盤とし、日々の授業実践の中で、上記のテーマに取り組んでいく。そして、一人１回の研究授業を実施し、授業者だけでなく教師全員が学び合う場としていく。 ①　学年会での教材研究の充実。 ②　一人１回の研究授業の実施(全体研３回、分科研６回、学年研１３回) ③　研究会での協議の視点をはっきりさせて行う。 ④　指導主事、指導員を要請する。 ⑤　授業後に成果と課題を協議し、まとめる。 (2)　共感的関係を学習の基盤とする。そのために、求める授業像の設定と聴き方と話し方の学習ルールを設定する。 (3) 学習評価を進める。

平成16年度	※平成１５年度末に本年度の研究のまとめとともに、見直し・修正をする予定。 今年度のものを生かしながら、あきらかになったことをもとにさらに実践を積み重ねる。

(3)　研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

(1)　確かな学びを作る学習過程の工夫

・「話すこと・聴くこと」に力を入れた課題解決型の学習過程の工夫に取り組んできた。「話し方・聴き方」の学習ルールについて、全体研で共通理解を図り、学年の実態に応じた掲示の工夫を行った。担任だけでなく級外も同じ事を大切にして取り組んできたことにより、子どもたちの中に、聴き合って学習する姿が育ってきている。書く力は、内容的にもたかまりがみられるようになり、自分の考えや思いを出し合うことはできてきている。しかし、出された考えの共通点・相違点・関連等を明らかにして課題を解決していくことは、まだ、弱い部分がある。とはいえ、友だちとかかわりながら、考えを深めていった姿がノート等の振り返りから、みられるようになってきたので、これからも継続して取り組んでいく。研究授業の反省会で、このことについて話し合う場を持ち、子どもたちの育ちが感じられるようになった。

(2)　基礎基本に迫るねらいの明確化

・前時や本時の導入の工夫や、何を考えればよいか焦点化した課題の設定により、子どもが考えを持ち、表現したくなるものとなった。また、評価規準は、本時のねらいや課題と密接につながるものであるので、つまづきそうなところでの全体への支援や、個別指導を要する子への支援など具体的に細かく考えて、どの子も評価規準が達成するようにと授業をすすめてきた。達成できない子がいたら、次時への指導に生かすと共に、何が足りなかったかの反省にもなる。例えば、見通しを持たせること、ヒントカードなどを使うこと、掲示物で既習を想起させること、机間巡視で声かけをすることなどいろいろある。このことのくりかえしにより、全ての子どもたちに基礎・基本の力が付いてきているといえる。

(3)　習熟度に対応する少人数学習の工夫

①　グループ分けの工夫

グループの選択が、めあての自覚化や学習意欲につながり、主体的な学習が期待できるため、以下のような基本的考えのもとですすめた。

・固定せず、多様な決め方をする。ネーミングを工夫する。

(例)
アトムグループ…正義の味方！自分の中の敵、つまり自分の弱点をみつけて克服していこう！
ドラえもんグループ…ポケットの中には、道具がいっぱい。持っている力(ドラえもんの道具)をどんどん出して問題を解決していこう！

・単元、または学習の段階ごとに決める。
・児童の希望を大切にして決める。
・グループ選択が適切にできる児童を育てていく。

<u>グループの分割方法</u>

・学級内２分割(３、４年)
・学年内５分割(５、６年　３クラス５グループ)

②　指導法の工夫

どの児童にも基礎・基本の力をつけるために

ア　児童の実態を把握し、課題や単元計画を立てる。　　別紙①参照
イ　一人一人に目を向けた指導をする。
　・座席表・補助簿を活用する。
ウ　算数的な活動を取り入れる。
エ　補充的な学習や発展的な学習などを取り入れる。

<u>発展的学習の工夫例</u>

・４年「少数」…少数第１位にとどまらず、同様に考えていくとその10分の１、またその10分の１…というように、端の世界が広がること、「大きな数」で学習した10倍すると１つ上の位になるという十進法の数の世界を広げて理解できた。
・３年「かけ算」、４年「わり算」「小数のたし算・ひき算」、５年「小数のかけ算・わり算」…桁数を増やして計算する方法を考えさせ、挑戦させた。
・５年「分数のたし算・ひき算」…同分母であるが、帯分数や整数の混じった計算を考え、挑戦させた。
・６年「平均」…１０ｍを５回歩いて自分の歩幅の平均を求め、その歩幅を使って廊下や体育館などのおよその長さを求めた。家から学校までの道のりを求めた子もいた。
・６年「およその面積」…北海道の縮図と縮尺を使っておよその面積を求め、

金沢市と中央小学校の敷地を、どんな形として見るかを考え、その形の長さを測って縮尺で　実際の長さを求めて計算し、およその面積を求めた。
・４年「整理をしよう」…中央小の1学期・月ごとの「学年とけがの種類」「けがの種類と場所」のどちらかを選んで２次元表にまとめた。
・４年「円と球」…「コンパスを使った幾何学模様作りとそれを生かしたこま作り」と「円や球の形をしたものの直径を測る、身の回りにある丸いものを探して丸いもののよさを考える」に挑戦させた。
・６年「比例」…いろいろな変化する２量の一つとして反比例を扱い、○と□の関係の決まりを調べたり、グラフを描いたりした。

補充的学習の工夫例

・児童の学習状況を細かく把握し、その場での声かけや個別指導をすると効果があった。
・ステップの細かいワークシートや練習プリントで、「できる」→「わかる」の流れで学習させた。
・練習問題のできぐあいで自己評価し、進むプリントをかえて練習させた。
・『数と計算』の学習で、計算の仕方を言葉にして、手順を言い合ったり計算を確認しながら何度も言ったりして、形をみにつけさせ、とまどったときにはそこにもどるようにした。
・４年「わり算」…単元の毎時間、時間の初めに２５ます九九計算を行い、「かかった時間を記録→答え合わせ→ノートにはる」までをシステム化して、九九の定着を図った。
・「大きな数」では、道具として位のカード(ものさし)を作らせ、それを使って読み書きさせた。
・４年「小数」…５まいのカードに好きな小数と整数を書かせ、友達とカードを１枚ずつ出し合って、大小比較したり、０.１がいくつと答えあったり、和や差を筆算で求めたりさせた。引き算をするときにも大小比較ができた。

オ　教師の授業力を高める。

③　少人数アンケート結果　　別紙②参照

・１学期２学期末に行ったアンケートによると、全体的に少人数による授業はわかる、発言・発表しやすい、詳しく教えてもらえる、理解する力がついてきたなど肯定的な意見が多い。また、授業が楽しみであるという児童も、全体で８０％を超えている。

④　児童生徒の意識・学力

各学年の１，２学期末テストの結果(１００点満点中)

学年	数学的考え方	表現・処理	知識・理解
３年平均	７６．０	９１．３	９１．０
４年平均	９０．２	８７．５	９１．６
５年平均	７３．１	８４．９	８５．６
６年平均	８２．０	８６．８	９０．２

・期待得点は、８０点と考えると概ね良好であった。
・「表現・処理」、「知識・理解」の観点では、全学年上回っている。少人数の場合、理解できていない児童を、把握しやすいのですぐ個別指導できたからであろう。子どもたちも、少人数での授業は、わからないことは、詳しく教えてもらえると言っている。
・「数学的考え方」の観点は、３年、５年で、他の観点より下回っている。考えることをせず、すぐ教えてもらいたがったり、結果だけを求めようとしたりする傾向がある。この観点は、日頃の積み重ねが必要であり、考える力をつけるためには、算数的な指導の工夫が必要であることがわかった。

⑤　教師の意識

・子どもの意欲がでる。授業を楽しみにしている児童が増えたようだ。
・力がついたと自覚している子が多く、学習にも積極的に参加している。
・発展等にチャレンジしている子は、楽しみながら、更に、確かな力をつけている。
・一人一人まで、指導支援がいきわたる。個々の学力が保障される。
・人数が少ないため、一人一人の考え方や理解度を把握しやすく、次の指導につなげることができる。一人一人に合った指導ができる。
・人数が少ないため、一人一人が自分を出すことができ、挙手が多い。
・落ち着いて学習に取り組み、個別指導もできる。
・担当者が、プリントなどの準備をしてくれるので、学習内容を充実させることができる。
・知識・理解、表現・処理面は良いが、学ぶ力という点から考えるとその思考・判断が身についたかというと疑問が残る。クラス単位で様々な考えを出し合いながら、思考を深めていくことで学ぶ力が身に付いていく。
・多くの児童にとってはよいが、本当に力をつけてやらなくてはならない児童についてはどうだろうか。
・時間にゆとりがない。他のグループと進度を合わせるのが難しい。
・習熟度の低いグループでの考え方の面の学習が成立しない場合がある。

⑥　保護者の意識

・一人一人まで、指導が行き届いている。
・しっかり学力保障の機会を与えてもらっている。
・グループ分けについて、方法や学習内容の違いを知りたい。
・グループによって学習態度が心配。
・低学年では、いつから少人数指導が始まるか知りたい。
・他教科(国語など)でも、少人数指導にならないのか？

以上①～⑥により、少人数学習は、確かな学力をつけるという点で、成果をあげているといえる。

(4)　学力テストの結果から

国語と算数を比べると、算数科の方がややよい成績である。理由として、３年生以上が少人数授業を経験しており、その成果があったのではないか、また、算数科の方が指導目標が明確であり積み上げがあるからではないか、等が考えられる。これをもとに、さらに指導を積み重ねてきている。

(5)　すくすくタイム

職員打ち合わせを児童の始業時刻より５分前にし、教師指導のもとで、朝１限目が始まる前に計算や漢字の習熟、読書等の時間を全校一斉に取っている。きちんとした心構えで１時間目をむかえることができるようになった。

(6)　公開週間

年５回の学校公開週間を設定し、保護者や地域住民に子どもたちの学習状況や生活の様子、授業の様子などを公開し、アンケートという形式で意見・感想をもらっている。それらをもとに、学校のあり方や、授業について見直し、考えることにしている。保護者との意思疎通を図る一手段として、活用していきたい。

２．今後の課題

・個に応じた指導を行ってきたため、それぞれの理解の速度にあわせての対応ができた。さらに、基礎・基本の力を確実に付けるには、定着と使いこなす力が必要である。これが、確かな学力につながる。学年末に向けて、今までの培った力を確実に身に付けさせたいし、また、応用できる力も付けさせたい。そのために、さらに、指導法や学習構成の工夫をしていく。特に、数学的思考、考える力の面で工夫していく。
・全体研、学年研などで、共通理解を図り、指導しているが、理解があいまいであったり、実態把握が確かでなかったり、指導者の力不足があったりして、うまくいかないこともあった。これからも、研究会などで、指導力量を高めるための努力をしていく。
・出された考えの共通点・相違点・関連等を明らかにして課題を解決していくことは、まだ、弱い。学び合う子を育てていく。
・今までの全員一斉授業にはない、少人数のよさを生かした効果的な指導法の工夫と教師の意識改革をすすめていく。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

学力調査　【調査の目的】児童の学力の実態を把握し、指導に生かす。
【実施内容】６年基礎学力調査(国算社理)
２～５年教研式標準学力調査(国算)
【実施時期】５月１日午前

少人数アンケート【調査の目的】児童の意識を調査し、指導に生かす。
【実施内容】３～６年アンケート
【実施時期】各学期末

生活と学習のアンケート
【調査の目的】児童の実態や意識を調査し、指導に生かす。
【実施内容】１～６年アンケート
【実施時期】３学期

児童の状況調査
【調査の目的】教師の指導を反省し、指導に生かす。
【実施内容】教師全員
【実施時期】学期末

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会、説明会等の開催予定
　・平成１６年９～１０月頃、中央小にて、公開研をする予定

研究成果普及のためのパンフレット作成等の予定
　・今年度の研究成果を冊子にまとめる予定

フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績と予定
　①　少人数学習研修会で実践報告　　内灘大根部小学校　(H15年8月27日)
　②　少人数学習研修会で実践報告　　松任東明小学校 (H16年2月2日)
　③　少人数指導について発表　　きめ細かな指導推進協議会(H16年1月28日)
　④　研究協力者となり、研究会に参加　　泉野小、小坂小、額小

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】　■ １５年度からの新規校　　□ １４年度からの継続校

【学校規模】　□　６学級以下　　□　７～１２学級
■ １３～１８学級　　□ １９～２４学級
□ ２５学級以上

【指導体制】　■ 少人数指導　　□ Ｔ．Ｔによる指導
□ 一部教科担任制　　□ その他

【研究教科】　■ 国語　■ 社会　■ 算数　■ 理科
■ 生活　■ 音楽　■ 図画工作　■ 家庭
■ 体育　□ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■ 有　　□ 無